

奥多摩むかし道を歩く

開催日：2023年11月18日（土） 晴 一般コース 歩数：1万9000歩 距離：11km

集合：JR青梅線奥多摩駅 10時15分

コース：奥多摩駅→(バス)→奥多摩湖→水根→水根増圧ポンプ所前→青目不動尊→浅間神社→
西久保の切りかえし→小広場（昼食）→道所吊り橋→牛頭（ごず）観音→馬の水のみ場→
しだら吊り橋→惣岳の不動尊→いろは楓→白髭神社→不動の上滝→桧村浄水所前→槐木休憩所
→羽黒坂→氷川大橋→奥氷川神社→奥多摩駅

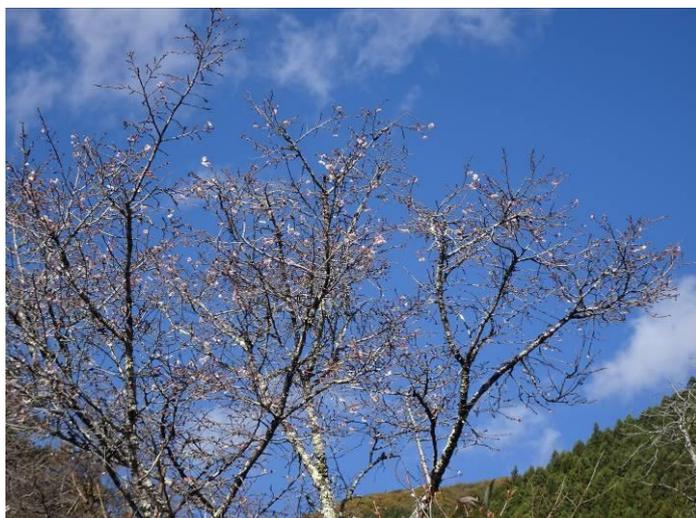
参加者：熊坂（L） 市村（SL） 飯倉（SL） 田村（SL） 勅使河原 平石 平山 河野 山内 清水
奥村 山田 高橋友 脇坂 山口 加納 保坂 玉利 工藤 中西 小野 佐藤し 22人

「会員さんのコース提案で企画しました。2018年5月27日、『多摩川を歩く8回目』で歩いたコースの逆コースです。以前は新緑の季節でしたので今回は紅葉に合わせました」との熊坂リーダーの呼びかけに、奥多摩駅に22人が降り立ちました。写真は昼食後、少し歩いたところの紅葉の前で撮影。



関東の駅百選奥多摩駅～臨時バス～奥多摩湖 十月桜と紅葉の競演

久々に降り立った「関東の駅百選」の奥多摩駅、JR青梅線の終着駅で味わいある山小屋風駅舎です。紅葉シーズンとあってバス待ちの人が行列、10時10分に臨時バスが運行されることになり先行組が乗車。青梅街道（国道411号）を西へ、少しずつ高度を上げていくつかのトンネルを抜けて10時23分、終点の奥多摩湖に到着。奥多摩湖は、多摩川を小河内ダムで堰き止めて1957年に完成した人造湖。水と緑のふれあい館でトイレを済ませ、広場でストレッチ。熊坂リーダーたちが定刻のバスで到着してコース説明。サブリーダーデビューの飯倉さん、田村さんとリーダーをパチリ。青空に十月桜と紅葉が競演していました。



奥多摩湖11時～水根～むかし道～水根増圧ポンプ所～道標「わさびー・19」

11時丁度にスタート、青梅街道の水根バス停のところを横切りむかし道へ入ります。標高は520m、坂道を上って行くと右手に東京都水道局水根増圧ポンプ所がありました。「奥多摩駅へ9.5km」の道標、奥多摩のキャラクター「わさびー」が「22」を表示。むかし道入口のところが「23」で奥多摩駅近くの青梅街道のところが「1」、進むにつれて若番号になります。道標を右に曲がって上って行くと満々と水を蓄えた奥多摩湖が見えました。「21」の道標、むかし道の石柱を通り「19」の道標まで歩いて来ました。



青目不動尊～標高 600mの浅間神社～小河内ダム・奥多摩湖一望

修験法印（山岳修行の最高位の験者）の奥平家で、不動明王を祀り、悪魔退散・衆生済苦と村人を守護し光明を与えてきた青目不動尊へ到着。あいにくと門扉に鍵がかかっている、中へ入ることできず拝観できませんでした。道標の「わさびー」は「18」、少し下って再び上り道へ、この日の最高地点標高600mの浅間神社へ。少し進んだところから小河内ダムと奥多摩湖が一望できました。



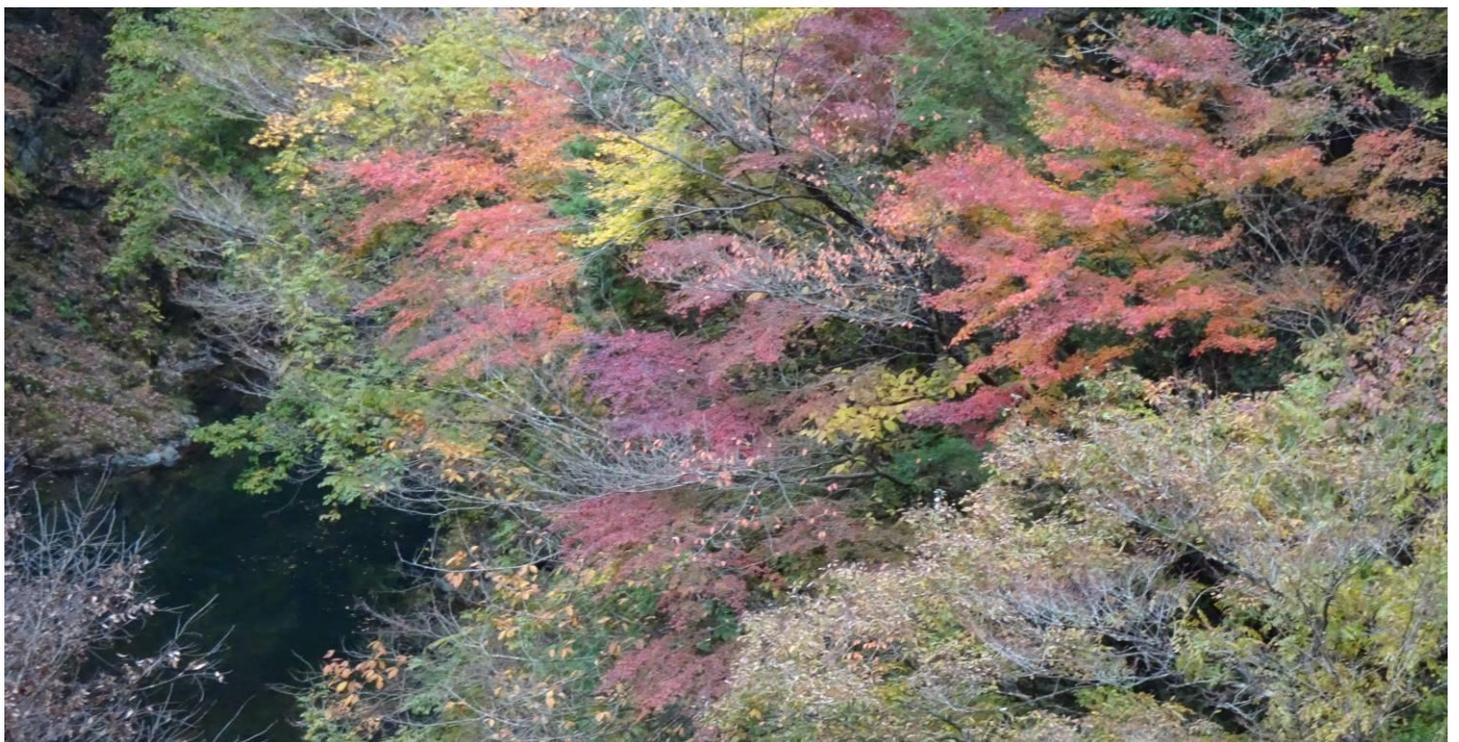
「わさぴー・16」～急坂 ぎんなん～西久保の切りかえし～小広場で昼食

少し下って「16」のわさぴー道標、奥多摩駅まで7.9mで矢印が下りを示しています。時刻は丁度12時、朝食が早かったので「お腹すいた～」の声。急坂を下って行く途中、民家の前でぎんなんと唐辛子を販売していました。一袋100円のぎんなんが人気、私も一袋購入。「13」のわさぴー道標のところで車道へ出て西久保の切りかえしへ、ヘアピンカーブを下りたところがトイレもある小広場、標高は440m。テーブルが5つほど設置されていて、昼食タイムです。奥多摩町で平成7年に「奥多摩むかし道」植樹を行ったとのことで、色づき始めた紅葉の前で集合写真、少し歩いたところは紅葉の見頃、ここでも1枚パチリ。



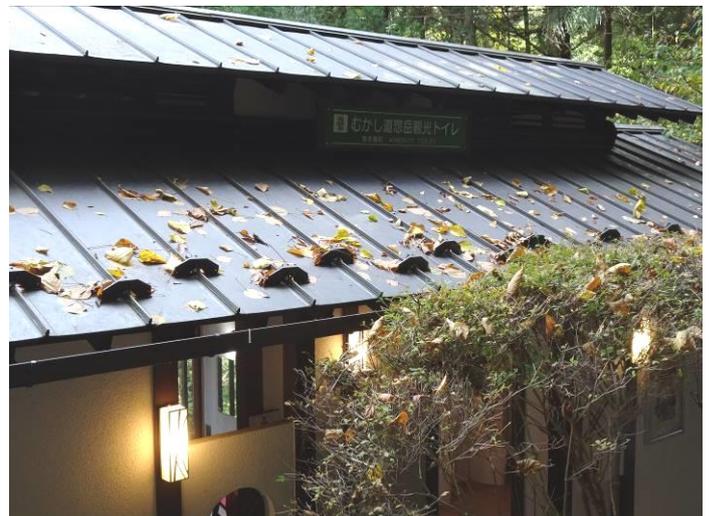
多摩川左岸ウォーク～道所吊り橋渡りを楽しむ～柚子～渓谷の紅葉

ここからは多摩川の左岸ウォーク、ゆるやかな坂道を下りていくと道所吊り橋へ到着。コースは橋を渡って対岸へ行くわけではないのですが吊り橋渡りをするに、昭和51年完成で板に穴が空いているところも。渡る人数制限は2人、ところが外国人2人が橋の中ほどで写真を撮っているのか居座ってしまっています。そこで脇坂さんが英語で話しかけてお見事、2人が戻って来てくれました。メンバーが男女2人ペアで渡って行きます。川面まではかなりの高さ、途中で写真を撮ったりして景観を楽しんでいる余裕の人もいます。最後は熊坂さんと平山さん、手を振って渡って行きました。今度は戻りです、小走りで来る人も、ゆれますよ～。「体験渡り」終了、大分時間を要しました。ウォーキング再開、「楽しかった」などと話しながら歩いて行くと民家の前で柚子が売られていました。大きいのが2個、小さいのが4個でそれぞれ100円、私は2個入りを購入。深い渓谷に色とりどりの紅葉が見えたのでカメラに収めました。



牛頭(ごず)観音～馬の水のみ場～しだくら吊り橋～惣岳の不動尊

道は多摩川に沿って曲線のなだらかな舗装道路です。むかし道、歩いていると見落としてしまうような地藏や観音が立札で説明されています。道所吊り橋を出て小さな牛頭(ごず)観音、少し進んで馬の水のみ場。立札に「ここで馬を休ませてかいばを与えました。馬方衆は3軒あった茶屋で一服休憩・・・」と書かれています。傍に廃屋となった茶屋がありました。小さな縁結び地藏尊を見て、しだくら吊り橋へ。ここは比較的新しく造られた吊り橋のようです。「昔は、巨岩から巨岩をつなぐように直径20cmほどの杉丸太を4～5本ずつ藤蔓で結び架橋」と説明されていました。14時少し前に惣岳の不動尊へ到着、トイレ休憩です。



綺麗な公衆トイレ～樹齢200年のいろは楓～14時20分 白髭神社

奥多摩町は、むかし道などに綺麗な公衆トイレが設置されていてハイカーにとっては感謝です。不動尊の周りには民家もあり、暖房用と思われる薪が積まれていました。少し進むと今度はさしみこんにやくとキウイの販売所です。左上に青梅街道が見えるところまで進むと、樹齢200年と言われるいろは楓が紅葉し始めていました。高さ約3mの自然石の下の方に腕が入るほどの穴が空いている「弁慶の腕ぬき岩」を見て、14時20分に白髭神社へ到着。急な石段を上って参拝、社殿を覆うように白髭の大岩がそびえています。古代において白髭大神信仰の文化が多摩川をさかのぼり、巨岩を御神体として祭祀が営まれてきました。



不動の上滝～道標「8」で階段上り～下って桧村浄水所前～道標「4」

足元に注意して石段を下り、不動の滝をめざします。道標「9」を通過して、落差7mの不動の上滝に到着。ここにも近づくとセンサーで灯りが点灯する綺麗なトイレが設置されています。水分補給もしてゆるやかな上り道を歩きはじめると後ろから賑やかな声、若者のランナー集団が「こんにちは～」と笑顔で走り抜けていきました。道標「8」へ到着、矢印が階段を上るようになっています。リーダーを先頭に上って行き集落に入り今度は下り、桧村浄水所前を通過。奥多摩駅行きのバスが2台走り過ぎて行きました。坂を下りきったところで青梅街道と合流しますが、むかし道は交番の手前の道標「4」のところで左へ折れます。



槐木休憩所～急坂の羽黒坂～15時40分「わさびー」道標「1」

桧村を離れて、右手溪谷の深いところを流れる多摩川を眺めながらゆるやかな坂道を上って行きます。15時15分に「4」の道標へ、トイレも併設されている槐木（さいかちぎ）の休憩所へ到着しました。立札に「槐木の地名は、羽黒坂の急坂と桧村からの坂を上りつめた所の槐木の巨樹（写真は9月の下見のとき）に由来している」と書かれていました。甘いお菓子の差し入れなどもあり小休憩、しかし大分影が長くなってきました。ここからは下り、20分ほど歩いて羽黒坂へ。羽黒三田神社前の急坂を下りて15時40分、「わさびー」道標「1」へ着きました。奥多摩むかし道踏破を記念して笑顔の平山さんの写真をパチリ。



氷川大橋～奥氷川神社～16時 奥多摩駅 1万9000歩 11km

青梅街道へ出て、澤乃井の地酒を販売している店の前を通過。日原川に架かる氷川大橋へ、風が冷たくなってきました。橋を渡った左手に奥多摩交番、「山岳救助隊」の看板が掲げられています。右手方向に奥氷川神社、神社の樹高約43mの神木「氷川三本杉」が迎えてくれました。境内の杉の木も黄色く色づいています。境内の一角を借りてクールダウン、神社を出て少し歩き16時丁度に奥多摩駅に戻って来ました。歩数1万9000歩、距離11kmでした。



2018年5月27日、『多摩川を歩く8回目』の参加者は25人。5歳半、歳を重ねました。今回も元気に歩かれた方は、勅使河原さん、平石さん、熊坂さん、河野さん、清水さん、山田さん、市村の7人でした。前回は晴天に恵まれて、しだら吊り橋渡りとゴールの満々と水を蓄えた奥多摩湖の風景が印象に残っています。ちなみに歩数と距離は今回と同じ1万9000歩、11kmでした。(いちむら記)